

## 教育2030を読み解く パネル・シンポジウムの要旨

SEAMEO (エセル・アグネス・パスカ・ヴァレンズエラ博士)

### I. 背景と概要

- SEAMEOは、東南アジア諸国の教育・科学・文化の協力を推進するために1965年に設立された政府間組織である。
- 2014年にSEAMEOの理事会は、「SEAMEOの7つの優先分野」として知られる「2035教育アジェンダ」を推進するために、ポスト2015年予測調査を承認した。
- 2014年の教育大臣による戦略的対話で、SEAMEOの重要アジェンダである7つの優先分野が支持された。すなわち1) 幼児保育・教育 (ECCE) の完全普及の推進、2) インクルージョンをはばむ障壁への対処、3) 教育におけるレジリエンスの促進、4) 技術・職業教育・訓練の推進、5) 教員養成・研修の活性化、6) 高等教育の流動性および研究の推進、7) 21世紀型カリキュラムの採用である。
- 教育大臣たちはまた、これら7つの教育アジェンダを実行するために、5つの提言をした。
- 2015年、国連は持続可能な開発目標を採択した。その一つが教育、すなわちSDG4である。これによって、SDG4を達成するための計画やプログラムを策定することが国際機関や地域機関および国内の諸機関に課せられている。

### II. 課題および制約

- SEAMEOの教育アジェンダおよびEducation 2035は、東南アジア地域のための教育目標やターゲットを支持し、集約するものである。
- SEAMEOの教育大臣は2016年にSDG4について討議し、SDG4およびSEAMEOの教育アジェンダを推進するためのロードマップおよび行動アジェンダを採択することに合意した。
- SEAMEO事務局は、域内の周縁化された不就学児童のために「質の高いアクセスできる教育」を達成する活動やプログラムを明らかにすることとなった。SEAMEO事務局は、2017年7月にSEAMEO理事会（教育大臣）の承認を受けるために、2016年から2019年の行動アジェンダを準備している。
- SDG4ははるかに野心的かつ包括的であり、多くのタスクを盛り込んだ10のターゲットを掲げているが、ある意味、SEAMEOの教育アジェンダと似ている。
- SEAMEOの「教育アジェンダ」は、各国の行動計画と「SEAMEO教育行動アジェンダ」を合わせたものである。最初の草案が8つの参加国から出されている。あと3か国はこれから国の行動アジェンダを出す予定。
- 「SEAMEO行動アジェンダ」と「東南アジアSDGロードマップ」の2つをすり合わせる必要がある。2つの道が1つの同じ目標を目指す。

### III. 今後の取り組み

- 積極的な対応：
  - 東南アジア諸国における新教育アジェンダおよびSDG4の国内ワークショップ

ップを実施する（インドネシア、フィリピンはすでに完了）。その他の国々は計画中。

- SDG4のマルチステークホルダー・サミットで国の指標をシェアし討議する。
- 教育の公正、質、評価制度に取り組む。
- 地球市民と地域の価値を推進する。
- SDG4を達成するために国レベルと地域レベルで次の4つのアプローチを用いる。1) SDG4のレビュー、モニタリング、報告、2) 政策と戦略、3) コミュニケーションとアドボカシー、4) 資金調達
- SEAMEOの道：1) SDG4に関する教育大臣対話でSEAMEOのSDG4行動アジェンダおよび7つの優先分野を承認し採択する。2) EFAのモデルに基づくSEAMEOのモニタリング・システムが各優先分野およびSDG4の各ターゲットで各国を導く。

#### IV. 結論

- EFAから学んだ教訓。
- SDGのための行動アジェンダおよびSEAMEOの2017-2019教育アジェンダを達成するために前進する。
- SDG4の運営委員会の支援など